

2020年5月24日 司祭 越山 哲也

八戸聖ルカ教会

復活節第7主日（昇天後主日） メッセージ

「絶対に変わらないもの、それはイエス様の祈り」

使徒書 使徒言行録 1章8節～14節

福音書 ヨハネによる福音書 17章1節～11節

主の平和が皆さんと共にありますように。

先週21日（木）は昇天日でした。4月12日の復活日から40日目にあたります。コロナウイルス予防のため3月29日（大斎節第5主日）から東北教区内すべての礼拝を休止（非公開）されていたため皆さんと約2ヶ月間教会に集って一緒に礼拝を献げることが出来ない日々が続いています。

教会暦は、大斎節、聖週、復活日から復活節、そして昇天日を迎え、本日は「昇天後主日」で復活節最後の日曜日を迎えました。

そして、来週の日曜日は聖霊降臨日を迎えます。昇天日から聖霊降臨日まで10日間あります。聖書によるとこの10日間にイエス様の弟子たちが何をしていたかを知ることが出来ます。

「彼らは皆、婦人たちやイエスの母マリア、またイエスの兄弟たちと心を合わせて熱心に祈っていた。」

（使徒言行録 1:14）

十字架の死による別れを経験し、失意の中にいた弟子たちの前に復活したイエス様は明らかに現れました。そして、彼らと40日間を共にしました。そして彼らの目の前で天に昇っていかれました。

弟子たちにとってせっかく再会出来たと思ったのにまたも別れが訪れたのです。しかし、十字架の死の時の彼らの様子とは明らかに違います。十字架の死の時は、弟子たちは失意の中でそれぞれが自分の殻に閉じこもっていたのです。

今回は、上記の聖書の箇所にあるように「彼らは皆、・・・心を合わせて祈っていた。」のです。場所はエルサレムの都の泊まっていた家の2階に集まって祈っていたようです。（使徒言行録 1章13節によると）

「わたしたちのために住まいを備えるため、その目の前で天に昇られました。」

この言葉は、聖書の言葉ではありませんが、日本聖公会祈祷書にある昇天日のお祈りの中にあります。この言葉によれば、イエス様が天に昇られた理由が、はっきりします。それは「わたしたちのために住まいを備えるため」です。

この住まいのことを「神の国」、「天の国」もしくは「御国（みくに）」といいます。

主の祈りの中で「御国がきますように」と祈ります。キリスト教信仰の最終目標は、御国の完成を待ち望む事です。世界の聖公会では「み国がきますように」の祈り運動を昇天日から聖霊降臨日までの10日間行う事を推奨しています。

主の弟子たちが10日間、一堂に会してひたすらに祈ったように私たちも「み国がきますように」と祈りたいと思います。

「み国」とは真に平和な状態が完成する時です。それまで地上の教会、つまり私たちは祈り続けるのです。イエス様の昇天の目的にもう一度心を向けましょう。「わたしたちのために住まいを備えるため」です。

「わたしは、もはや世にいません。彼らは世に残りますが、わたしはみもとに参ります。聖なる父よ、わたしに与えてくださった御名によって彼らを守ってください。」(ヨハネによる福音書 17 章 11 節)

これは本日の福音書の御言葉で、イエス様の告別の祈りと呼ばれています。イエス様がローマ兵に捕らえられ、裁判にかけられる前夜に天におられる父なる神にイエス様ご自身が祈られた言葉です。

何て愛に満ちた祈りでしょうか。私はこの箇所に触れる度に感動を覚えます。

この地上は「み国」の完成にはほど遠いと感じます。争い、ねたみ、差別、不品行、自己顕示欲、不条理などに満ちています。私自身もその中にどっぷりと身を置いて日々生きています。それが人間です。イエス様はそのような地上の現実の中に生まれ、生きて、そしてその不条理の中で死なれたのです。そんなお方が上記のように祈られたのです。

私には到底出来ません。だから、私はイエス様にこれからもたくさん不満をぶつけるでしょう。疑問を投げかけるでしょう。でも、それは私のイエス様に対する信頼なのです。理解出来ないこと、不条理なことに直面した時にイエス様に疑問や不満を問いかける事によって何とか踏みとどまることが出来るのです。そして、それらをイエス様はすべて受け止めてくださると信じています。

「天の御国」という住まいを私たちに備えるために、イエス様は今も、そしてこれからも永遠に私たちのために祈ってくださっていることを信じたいと思います。

新型コロナのために弟子たちが一所に集まってひたすらに心を合わせて祈ったような事を私たちは現在出来ないというこれまでに経験したことのない日々を送っています。

教会は、「集められた民」ですから集まる事を何よりも大切にしてきました。それが出来ない日々です。集まって祈ることは絶対に変わらない普遍的な事だと私は思っていたのだと今回の件で強く思われています。もちろん、集まることは教会にとって大切な事である事には変わりはありません。しかし、普遍的なことではない事を知りました。

その中で私たちが今心に覚えなければならない絶対に変わらない普遍的な事は、私たちの住まいを備えるため天に昇られたイエス様が、この世の荒波に生きる私たちを守るために日々執り成しの祈りを献げてくださっていることだと思います。これが本日私たちに与えられた Good NEWS (良き知らせ) 「福音 (ゴスペル)」です。